

大女子医大
東京女子
児童死亡
事件

心肺装置に精通せず

担当医ら トラブル対処できず

東京女子医大病院(東京・新宿)で小学六年の平柳明香さん(当時12)が手術ミスで死亡した事件で、人工心肺担当医だった佐藤一樹容疑者(38)が人工心肺装置の仕組み、取り扱いに精通していなかった可能性が高いことが三十日、警視庁牛込署特捜本部の調べで分かった。

調べでは、明香さんの手術中、佐藤容疑者が人工心肺装置のポンプの回転数を上げすぎたため圧力異常が発生、脳に血液が循環しなくなった。医師らはトラブルに対処できず、臨床工学技士が弁の開放操作をしたところ、圧力は正常に戻った。特捜本部が病院関係者らから、事情を聴いたところ、人工心肺装置の仕組みやトラブル対処についてマニュアルはなかった。装置の仕組みについて、佐藤容疑者は「先輩の医師らから」伝え聞いただけだった」との趣旨の供述をしており、病院幹部も「装置の設計上、圧力異常が起きる可能性がある」と認めた。担当医らは「知らなかったかも」と認めている。

特捜本部は三十日、手術チームのリーダーだった瀬尾和宏容疑者(46)の指示で看護記録などを改ざんしたとして、同病

院の看護師長(54)と臨床工学技士(31)の二人を証拠隠滅容疑で書類送検した。

女子医大小児心臓手術事故
佐藤医師精通せず
2002年7月1日 日経新聞